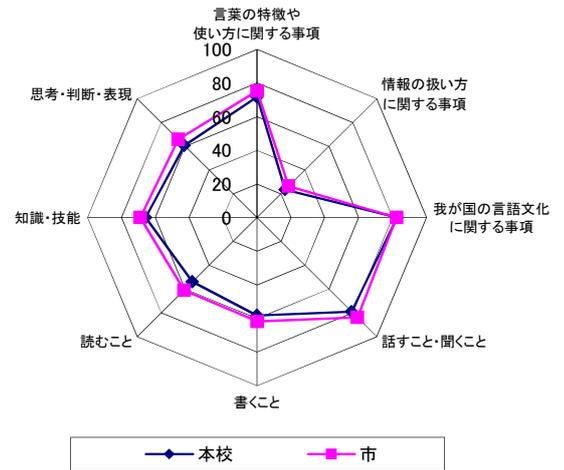


宇都宮市立横川西小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	71.8	75.3	77.1
	情報の扱い方に関する事項	23.5	26.5	27.8
	我が国の言語文化に関する事項	82.7	82.4	81.0
	話すこと・聞くこと	79.0	83.9	84.2
	書くこと	58.2	61.7	64.5
	読むこと	53.9	60.9	61.0
観点別	知識・技能	65.7	68.8	70.3
	思考・判断・表現	60.7	65.8	67.0

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

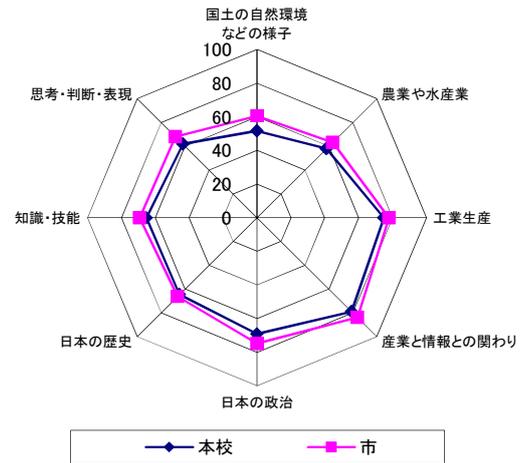
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	市の正答率を3.5ポイント下回った。 ○漢字の読みにおいては、市の平均とほぼ同じ数値が高い状況である。 ●漢字の書きにおいては、市の平均を下回っている。 ●文と文の接続の関係についての問題では、市の平均を8ポイント下回っている。	・5,6年生で習った漢字について、繰り返し漢字練習をさせたり、Aドリルを活用して学習させたりして、確実に漢字の基礎基本を定着させる。 ・接続詞の種類やそれぞれの効果について、実生活の中での会話を例にしたり、イラストを示したりするなど、状況が分かるような配慮を行うことで、理解を高めるようにする。
情報の扱い方に関する事項	市の正答率を3.0ポイント下回った。 ○情報と情報との関係について理解し、目的に応じた文章を簡潔に書く問題は市の平均と同じである。 ●情報と情報の関係について理解し、文章の情報を整理する問題では、市の平均を6.1ポイント下回っている。	・文章の中から、要旨となる部分を判断するとともに、それをまとめる活動を授業の中で行う。 ・提示された条件に応じて自分の考えをまとめることができるように、普段の授業の中でも条件を与えるなどの工夫を行う。
我が国の言語文化に関する事項	市の正答率を0.3ポイント上回った。 ○和語、漢語、外来語についての理解を問う問題では、市の平均を上回っていた。	・漢字の成り立ちや由来について授業の中で話題にしたり、調べる機会をつくったりするなど、和語、漢語、外来語に触れる機会を増やす。
話すこと・聞くこと	市の正答率を4.9ポイント下回った。 ○話の内容をとらえる問題では市の平均を上回った。 ●意図に応じて、質問を考える問題では、市の平均を9ポイントほど下回っている。	・自分の考えを述べるだけでなく、目的に応じて質問をしたり、質問内容に沿うような返答をしたりする言語活動を充実させるようにする。
書くこと	市の正答率を3.5ポイント下回った。 ○情報と情報との関係について理解し、目的に応じて、文章を書く問題では、市の平均と同じであった。 ○●指定された条件下で自分の考えを書く問題では、自分の立場とその理由を具体的に書くことはできているが、予想される反論と、それに対する自分の考えを書くことのできる児童の割合が市の平均を8ポイントほど下回っている。	・自分の意見を批判的に捉える力を高めることが重要になると考えられる。同じテーマについて友達と意見を交わすなどして、多様な考えがあることに気付けるようにする。 ・意見文について、書き方の型など、方法論的な説明を充実させる。
読むこと	市の正答率を7.0ポイント下回った。 ○説明文全体の構成を捉える問題では、市の平均と同程度だった。 ●物語の内容を読み取る問題の登場人物の心情について描写を基に捉える問題では、市の平均を10ポイントほど下回っている。 ●説明文の叙述をもとに内容を捉える問題では、市の平均を12.3ポイント下回っている。	・教科書にある文の読解だけに終わるのではなく、心情理解や内容理解の際に大切となる読み取り方を、教材文から学ぶことができるようにする。 ・教材文から学んだことを、別の文章でも使うことができるかを確認するなど、学習の計画を立てるようにする。

宇都宮市立横川西小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	51.6	60.5	65.8
	農業や水産業	58.0	63.3	66.0
	工業生産	74.9	77.9	75.7
	産業と情報との関わり	79.0	83.8	76.6
	日本の政治	69.1	74.9	74.1
	日本の歴史	64.7	66.3	68.3
観点別	知識・技能	65.3	69.3	71.4
	思考・判断・表現	61.9	68.1	66.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

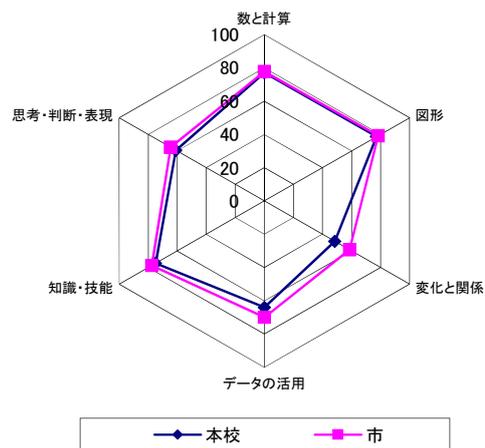
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境などの様子	市の正答率を8.9ポイント下回った。 ○日本周辺の海洋名については、市の平均を下回るものの無解答の児童はいなかった。 ●国土の構成や太平洋側の気候の特色に関する正答率が低い。	・5年生の学習である国土の構成や気候の特色について、関連のある内容を扱う際は、繰り返し触れることによって知識の定着を図る。 ・様々な教科の授業や身近なニュースなどで見聞きした地名や国名について、日頃から地図帳を活用して調べる活動を取り入れる。
農業や水産業	市の正答率を5.3ポイント下回った。 ○米の品質を高める工夫に関する問題の正答率は全国よりも高かった。 ●食料自給率や外国との関わりにおける課題に関する問題での正答率は低かった。	・提示された複数の資料について、それぞれどんなことを示しているのか、関連することは何か、どのような問題点が明らかになるかなど、具体的に観点を示しながら読み取る活動を行っていく。 ・日本の食料自給率や外国との課題などについて復習をする。
工業生産	市の正答率を3.0ポイント下回った。 ○自動車の製造工程に関する問題では、正答率が90%を超え、市の平均とほぼ同じであった。 ●日本の主な輸入品輸出品に関する問題の正答率が低かった。	・日本の主な輸入品・輸出品については再度復習をする。
産業と情報との関わり	市の正答率を4.8ポイント下回った。 ○情報の注意点に関する問題では、市の平均を下回るものの正答率は90%を超えている。 ●産業における情報活用の現状や公害に関する問題での正答率が低かった。	・産業における情報活用や公害など児童にとって身近ではない事象については、具体的な事例を示すなどして理解をさせていく。
日本の政治	市の正答率を5.8ポイント下回った。 ○平和主義の基本的な考え方に関する問題では、正答率が95%を超え、市の平均よりも1.5ポイント上回っている。 ●基本的人権の尊重の基本的な考え方に関する問題の正答率が低かった。 ●租税の役割や議会政治に関する問題での正答率が低かった。	・基本的人権の尊重の考え方について、具体的な事例を挙げながら再度復習する。 ・租税教室でのパンフレットを再度取り上げ、租税の役割について理解を深めていく。 ・議会政治の仕組みや役割についてももう一度内容を確認する。
日本の歴史	市の正答率を1.6ポイント下回った。 ○元との戦いに関する問題では2.6ポイント、豊臣秀頼の業績に関する問題では13.9ポイント市の平均よりも上回っている。 ●特に縄文時代から平安時代までに関する問題の正答率が低かった。	・各時代ごとの主な出来事や文化の特徴について、年表を活用したり、特徴的なエピソードからノートにまとめたりして、理解を深めさせる。 ・歴史的な事象の名称の理解にとどまらず、前後の出来事との関連や事象から分かる事柄についても考えさせる活動を行う。

宇都宮市立横川西小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	77.0	77.7	78.6
	図形	77.3	78.4	74.4
	変化と関係	48.6	58.7	53.0
	データの活用	64.0	69.9	57.2
観点別	知識・技能	74.9	77.5	74.0
	思考・判断・表現	61.0	64.5	58.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

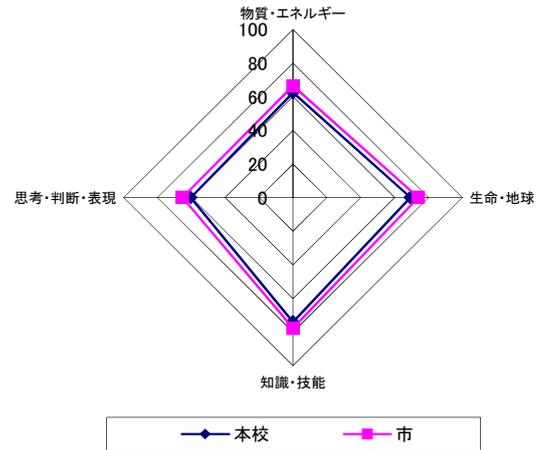
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>市の正答率を0.7ポイント下回った。</p> <p>○小数第一位÷小数第一位＝小数第一位の計算では市の正答率を上回った。</p> <p>●基準量が分数の場合において、分数倍の比較量を求める問題では正答率が55.6%で、市の平均を5ポイント以上下回った。</p>	<p>○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎的、基本的な計算の習得のために、朝の学習の時間の計画的な活用や毎日の宿題を通して繰り返し計算問題に取り組ませる。 ・習熟度別学習をうまく活用して、基礎基本の定着を図ったり、発展的な問題に取り組んだりするなど、個に応じた指導の充実を図る。 ・分数を扱ったいろいろな問題の復習をする。
図形	<p>市の正答率を1.1ポイント下回った。</p> <p>○対称な図形の選択問題は2問とも市や全国の平均正答率を上回った。</p> <p>●ひし形の面積を求める式を理解しているかを問う問題の正答率は、69.1%で、市の平均を6ポイント以上下回った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ひし形だけでなく、三角形や平行四辺形、台形などの面積を求める公式を定着させるために定期的に宿題等で復習する。高さが図形の外にある図形など多様な問題にも取り組ませ応用力も身に付けさせたい。 ・合同や対称についても定期的に復習し、学力の定着を図る。 ・実際に図形を描いたり組み立てたりするなど、体験的な学習を多く取り入れ、図形に対する理解を深める。
変化と関係	<p>市の正答率を10.1ポイント下回った。</p> <p>○表から面積と人数の割合を求め、どのプールが最も混んでいるかを考察する問題では、市の平均正答率を下回ったものの、全国の平均正答率を0.4ポイント上回った。</p> <p>●速さの単位の間隔を理解し、分速を秒速や時速に直すことができるかを問う問題では、正答率が50%を下回り、市の平均を8.6ポイント下回った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・速さ、道のり、時間の関係と、求める式について再度確認し、問題場面に応じてどのように数量を求めるのか考える学習を継続していく。 ・割合に関する問題の正答率が低い背景には、問題文を読んで数量関係を把握することの苦手がうかがえる。日常生活の中で割合に表せる事柄を話題にし、児童にとって割合が身近なものとなるようにし、問題を解く際には数直線や図などを活用して数量関係を捉えることができるようにしていく。
データの活用	<p>市の正答率を5.9ポイント下回った。</p> <p>○表から平均を求める問題の正答率は86.4%で、市の平均正答率を0.6ポイント上回った。</p> <p>●ヒストグラムの特徴をもとに、平均値付近の記録がいちばん多いわけではないことを説明する問題の正答率は33.3%で、市の平均正答率を10ポイント以上下回った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・平均値、ドットプロット、最頻値、中央値等の専門語句と、それらがどういふものかの復習をするとともに、児童の生活の中から問題を出題し、実際のデータの活用に取り組ませることで、身近でないデータ処理を身近で有用なものと感じさせたい。 ・下学年から、教師が意図的に「比べる」「整理する」場面を作って児童に意識させ、高学年では多面的にデータを分析・判断する数学的な見方・考え方を養っていく。

宇都宮市立横川西小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	62.4	66.5	66.3
	生命・地球	69.3	74.0	72.6
観点別	知識・技能	74.0	77.6	78.2
	思考・判断・表現	60.3	65.3	63.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	<p>市の正答率を4.1ポイント下回った。</p> <p>○メスシリンダーで水を正しくはかりとることができ、正しい手順の操作を答える設問では、市の正答率を2.6ポイント、全国の正答率を3.8ポイントを上回った。</p> <p>●「物の燃え方」に関する問題の正答率が市の正答率より10.8ポイント下回った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・AIDリルなどの演習問題に取り組み、基礎的な知識の定着を図る。 ・実験が失敗したときの原因を検討・追求し、次時の活動につなげられるようにする。
生命・地球	<p>市の正答率を4.7ポイント下回った。</p> <p>○月の形から、太陽がある方位と観察した時刻を指摘する設問では、市や全国の正答率を上回った。</p> <p>●「天気の変化」に関する問題の正答率が市の正答率より7.2ポイント、「生物とかんきょう」に関する問題の正答率が7.3ポイント下回った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・AIDリルなどの演習問題に取り組み、基礎的な知識の定着を図る。 ・実験や観察、映像資料などを活用して児童が体験的に理解できるようにする。

宇都宮市立横川西小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
学びを実感できる授業づくり	実生活と結びついたやりがいのある問題場面を設定し、習熟度に応じて適切な支援をすることで、一人一人を大切に授業の展開を意識した。また、協働して問題解決に取り組む場の設定やICTの効果的な活用の工夫により、学びが深まる工夫を行った。	「学習して、いろいろなことが分かったり、できるようになったりすることはうれしい」の質問に対して、どの学年も肯定割合が90%を上回り、4つの学年で昨年の結果から上昇していた。
基礎的・基本的な学習内容の定着と家庭学習の習慣化	全学年で共通の学習のきまり「レッツスタディ」をもとに、学習規律について指導を行っている。また、「学習指導だより」や「家庭学習のヒント集」を配付して、目標をもって自主学習に取り組むように指導している。また、家庭学習強化週間を年2回設け、家庭学習の状況を振り返り、計画を見直すことで、調整しながら学習に取り組む態度が育つようにした。	3年生以上に關わる「自分で計画を立てて、家庭学習に取り組んでいる」の質問に対しては、4つの学年のうち3つの学年で市の肯定割合を上回っていた。また宿題の取り組みに関する質問では、6学年のうち4つの学年で、昨年の本校の結果から上昇していた。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

・国・県・市の調査結果では、国語・算数・理科において正答率がそれぞれの平均を下回っている。しかしながら学習に取り組む姿勢については改善してきており、今年度同様に「分かる授業」を展開するように努めるとともに、個に応じて適切な支援を続けることで、落ち着いた授業に取り組み、基礎学力の向上を図ることができるようにしていきたい。また、記述式の設問などでは、答え方・書き方について指導するなど、技術的な指導をしていくことも考えられる。

・家庭学習など、学習習慣の定着状況も上昇傾向にあると考えられる。基礎的・基本的な学力を身に付けさせるためには、家庭学習も重要な要素の1つと考えられるので、今後も家庭への学習習慣づくりのための協力と啓発を進めていきたい。